

世界が進むチカラになる。



グラフで見る関西経済 (2023年10月)

2023年10月24日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

今月の景気判断～足踏み状態となっている

【今月のポイント】

- 関西経済は、足踏み状態となっている。
- 8月の生産は2カ月ぶりに前月比プラスとなったが、均してみると弱含んでいる。電気機械が減少、汎用・生産用・業務用機械（半導体製造装置など）が増加した。
- 9月の実質輸出（季節調整値）は、前月比+2.7%の104.3と上昇に転じたが、均してみると弱含んでいる。
- 個人消費は、物価上昇の影響が懸念されるが、ウィズコロナの定着により持ち直しの動きがみられる。

項目	現状
景気全般	足踏み状態となっている
生産	弱含んでいる
輸出	弱含んでいる
設備投資	持ち直している
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直しの動きがみられる
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	弱含んでいる
公共投資	高めの水準となっている

生産

8月の鉱工業生産(関西)は前月比+3.3%と2カ月ぶりにプラスとなったが、均してみると弱含んでいる。業種別では、電気機械が減少したが、汎用・生産用・業務用機械(半導体製造装置など)が増加した。

鉱工業生産指数

(2015年=100)



(出所)経済産業省「鉱工業生産動向」

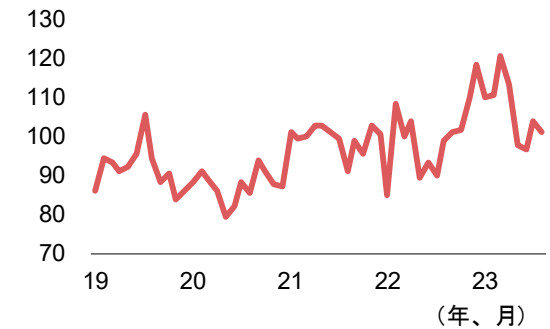
電子部品デバイス

(2015年=100)



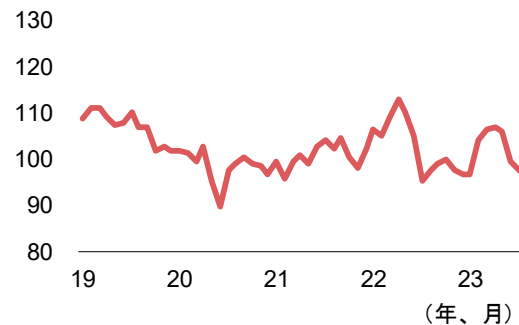
電気機械

(2015年=100)



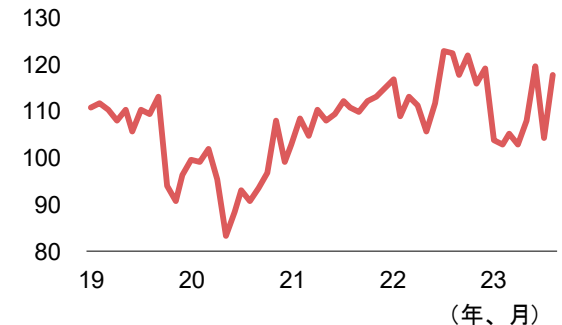
化学

(2015年=100)



汎用・生産用・業務用機械

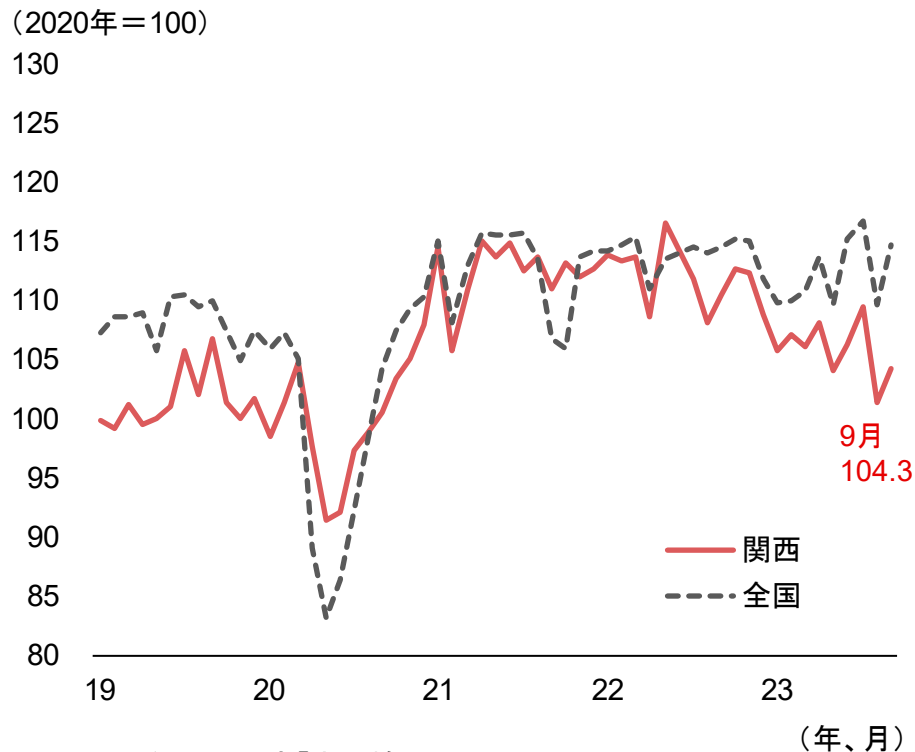
(2015年=100)



輸出

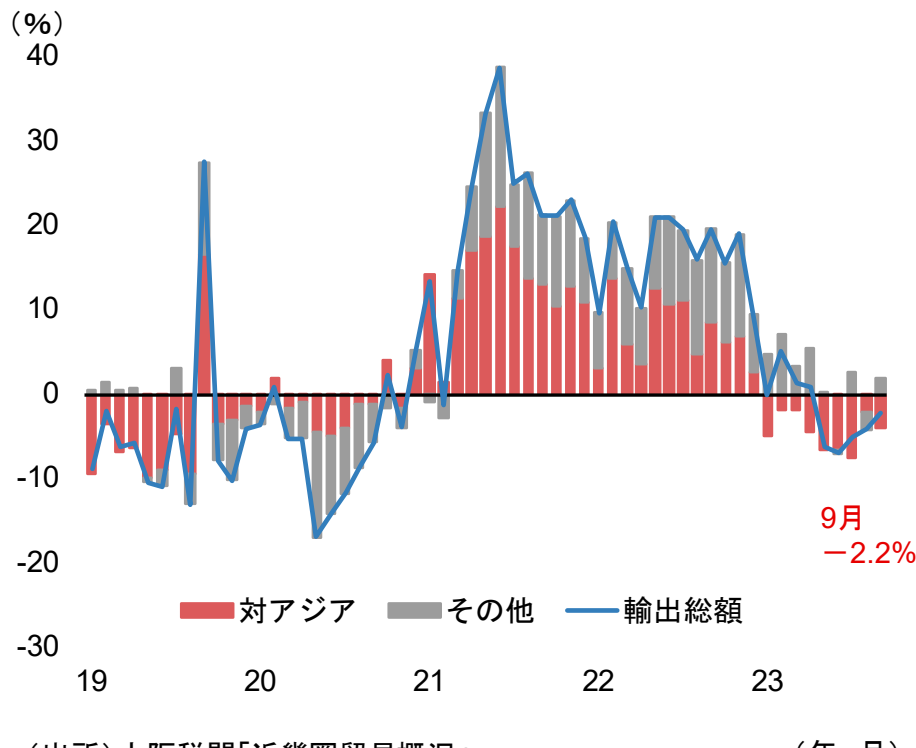
9月の実質輸出(季節調整値)は、前月比+2.7%の104.3と上昇に転じたが、均してみると弱含んでいる。名目輸出額(9月)は5ヵ月連続で前年を下回った。地域別では、米国、EU、その他向けが増加したが、アジア向けが減少した。品目別では半導体等電子部品、コンデンサーなどが減少した。

実質輸出指数(季節調整値)



(出所) 日銀大阪支店「実質輸出入」

名目輸出(前年比、寄与度)

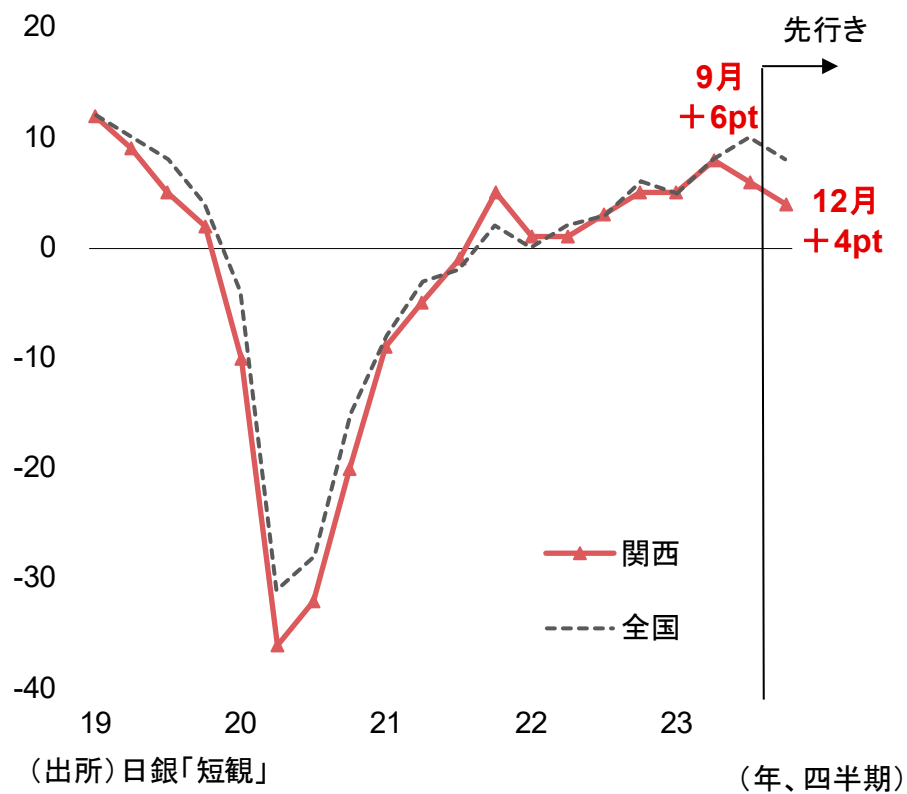


(出所) 大阪税関「近畿圏貿易概況」

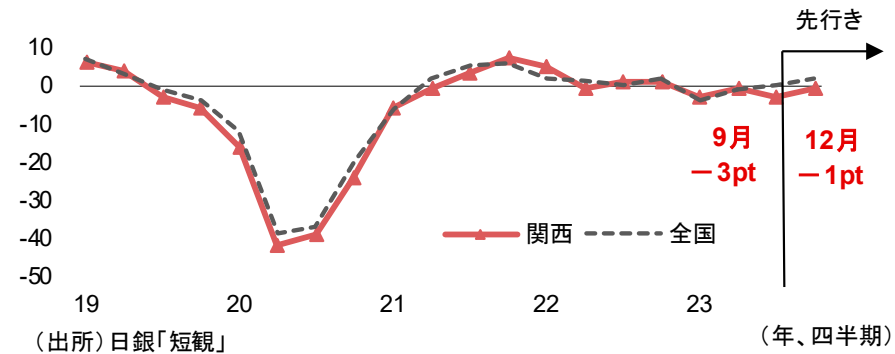
企業景況感(日銀短観)

日銀短観9月調査の業況判断DI(「良い」-「悪い」)は、全産業で+6ptと6月調査から低下。製造業は-3ptと前回調査から低下、非製造業も「良い」超ながら+14ptと低下した。業種別では、電気機械の「悪い」超過幅が拡大し、宿泊・飲食サービスの「良い」超過幅が縮小した。先行き(12月)については、製造業は「悪い」超ながら改善、非製造業は「良い」超ながら悪化が見込まれている。

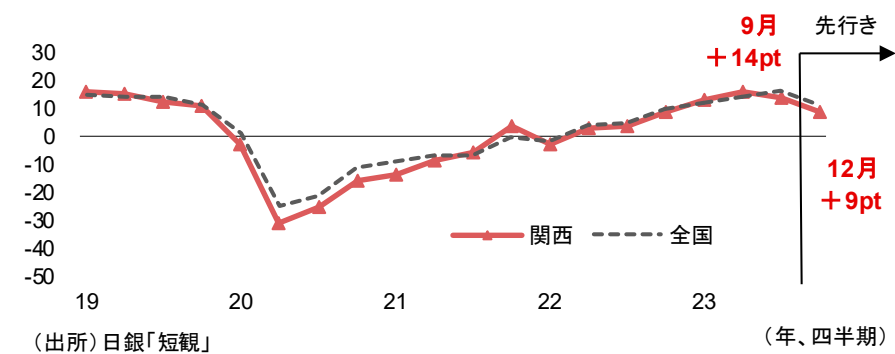
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業



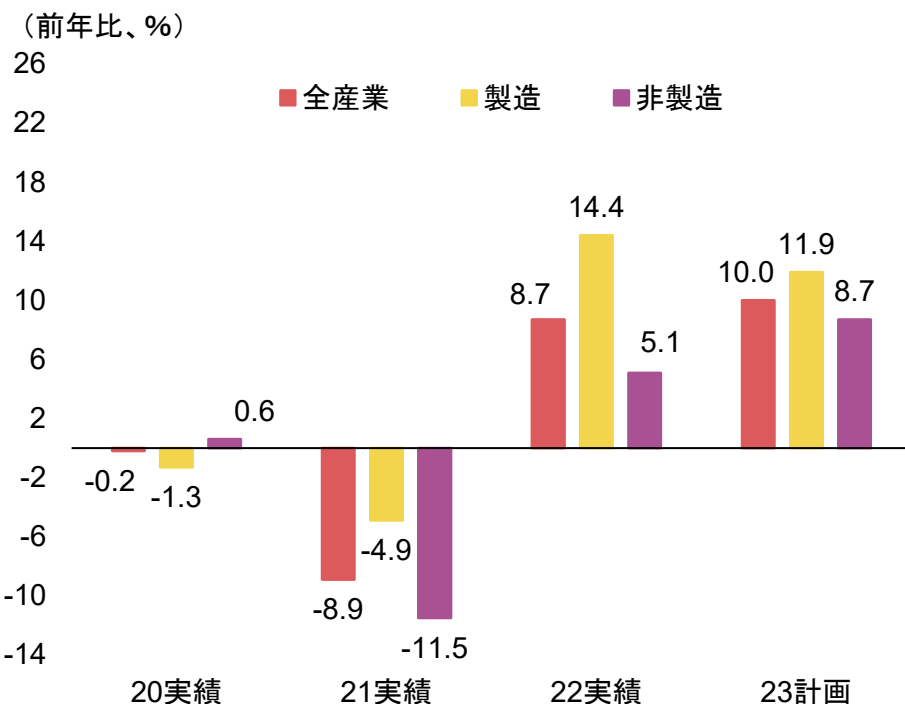
同 非製造業



設備投資

日銀短観9月調査によると、23年度の設備投資は前年比+10.0%と、6月調査とほぼ変わらず。金属製品、輸送用機械、対事業所サービスなど多くの業種で前年比2桁の大幅増が見込まれている。規模別では、中小企業が減少を見込む一方、大企業、中堅企業で増加が見込まれている。

設備投資 実績・計画



(出所)日銀大阪支店「短観」

(年度)

(注)設備投資は、含む土地投資額

設備投資額(前年比%)

	22年度 実績	23年度計画		
		今回調査	前回調査 との差異	前回調査
全産業	8.7	10.0	(-0.4)	10.4
製造業	14.4	11.9	(-1.1)	13.0
非製造業	5.1	8.7	(0.0)	8.7

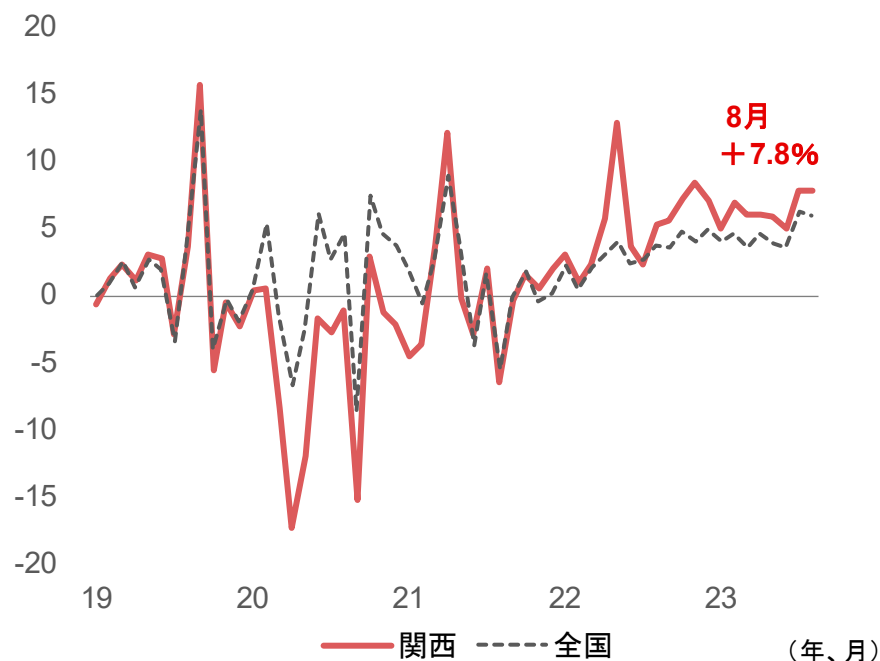
個人消費(小売売上、自動車販売)

8月の小売販売額は前年比+7.8%と23ヵ月連続でプラスとなった。先行きは、物価上昇の影響が懸念されるが、ウィズコロナの定着により持ち直しの動きが続くとみられる。

9月の新車販売は、前年比+12.0%と13ヵ月連続でプラスとなった。水準はコロナ前を下回るものの、持ち直しの動きがみられる。

小売販売額(6業態計)

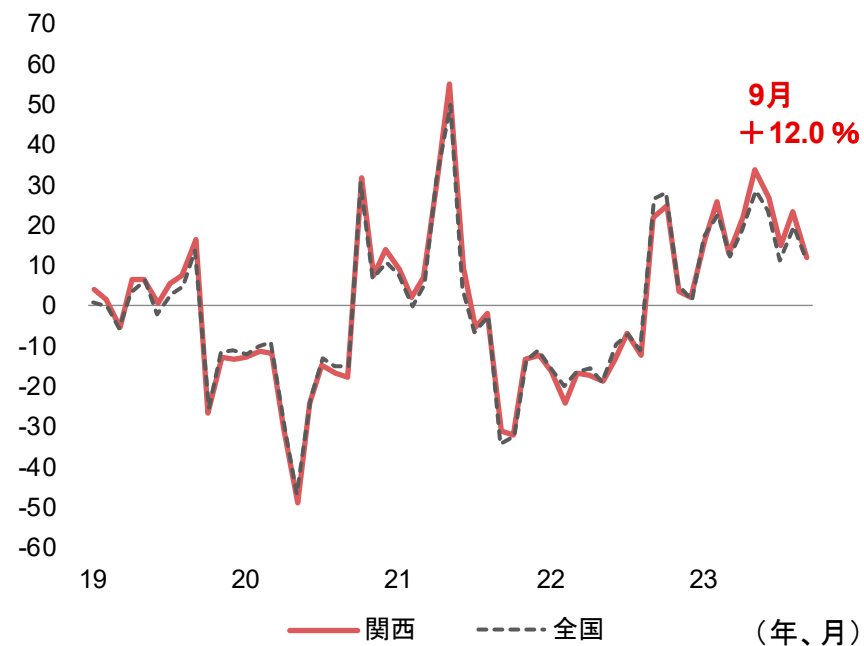
(前年比、%)



(出所)経済産業省「商業動態統計」
(注)百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計

新車販売台数(含む軽)

(前年比%)

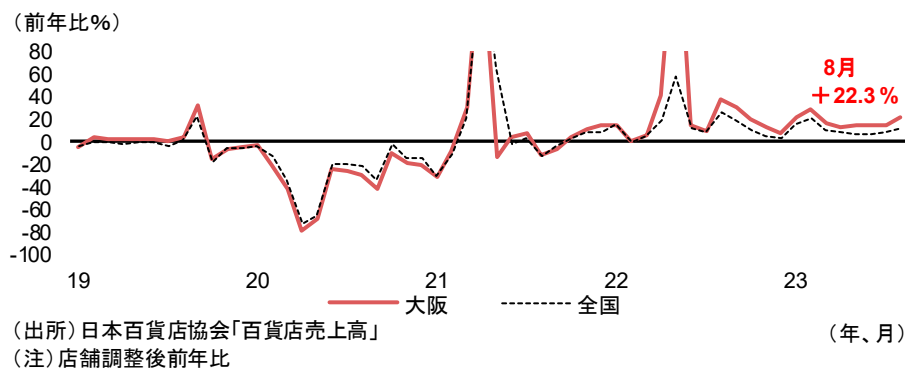


(出所)日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」
全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

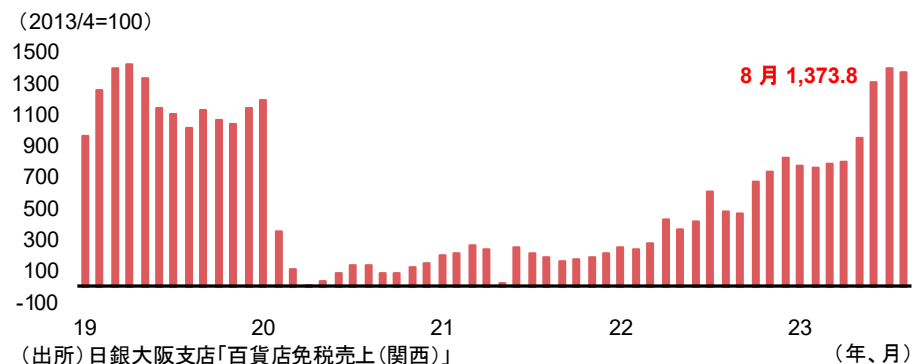
個人消費(業態別)

8月の百貨店売上(大阪)は、外出機会やインバウンドの増加により前年比+22.3%と23ヵ月連続でプラスとなった。京阪神百貨店免税売上指数は、入国制限の緩和以降水準を上げ、8月は1,374とコロナ前の19年同月(1,011)を上回っている。

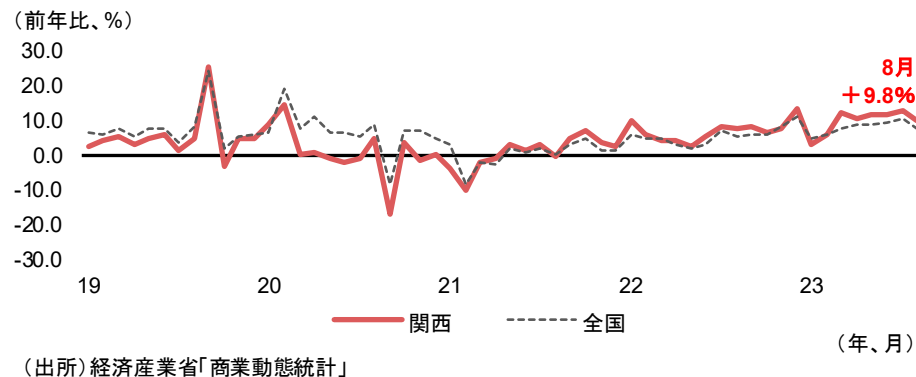
百貨店売上高



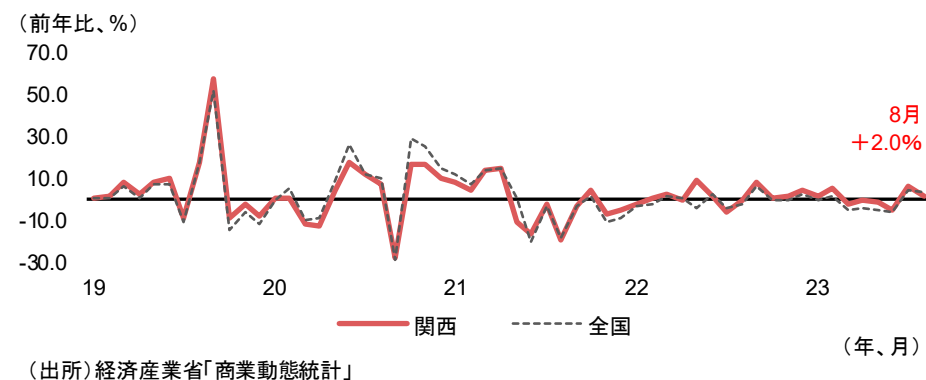
京阪神百貨店免税売上高



ドラッグストア販売額



家電大型販売店販売額

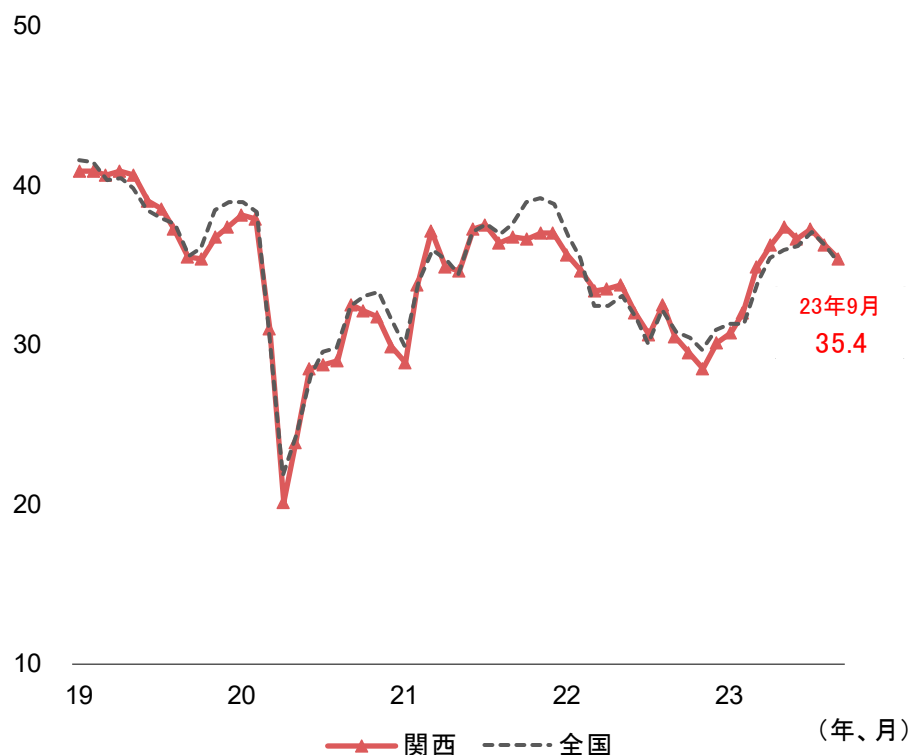


マインド・景況感

9月の消費者態度指数(季節調整値)は35.4と2カ月連続で低下した。

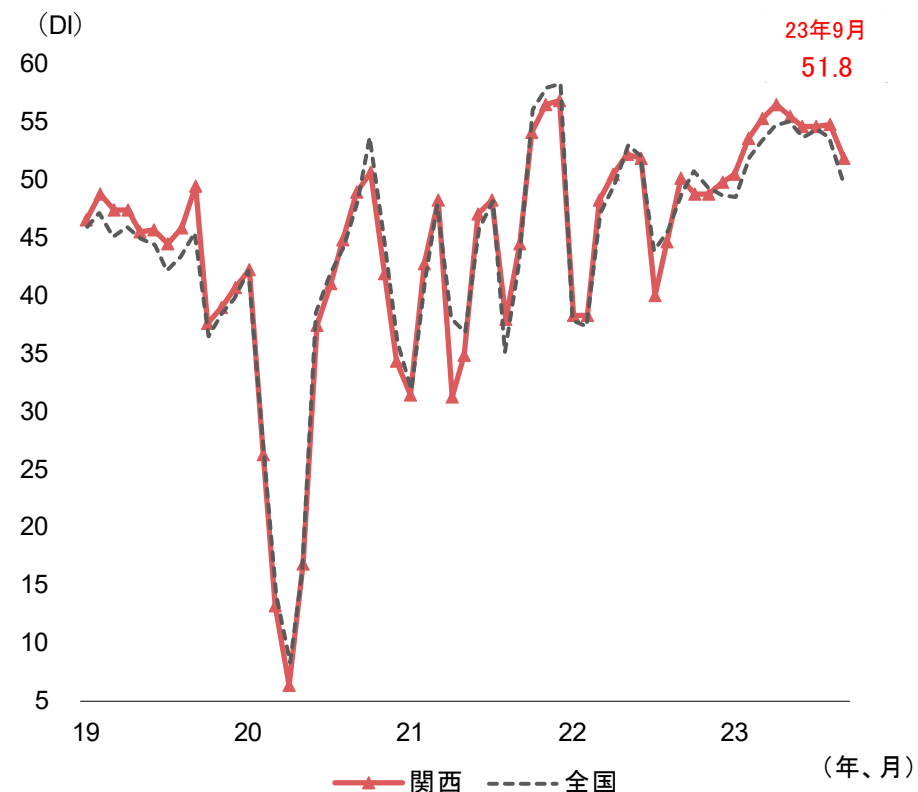
9月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、51.8と3カ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を9カ月連続で上回った。インバウンドの増加が景況感にプラスとなる一方、物価上昇がマイナスに働いた。

消費者態度指数



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査(現状判断)



(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

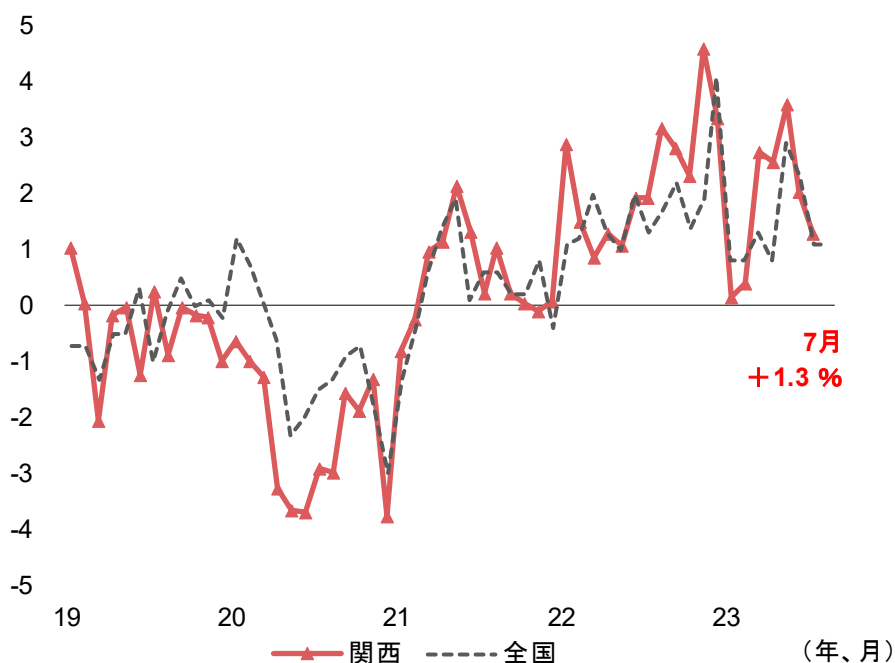
賃金・雇用

7月の名目賃金指数は20ヵ月連続で前年を上回った(前年比+1.3%)。

8月の有効求人倍率は1.19倍と前月から小幅上昇。求人倍率は全国と比べ低めで推移している。23年4-6月期の失業率は2.7%と前期から低下、就業者数は増加した。

名目賃金指数

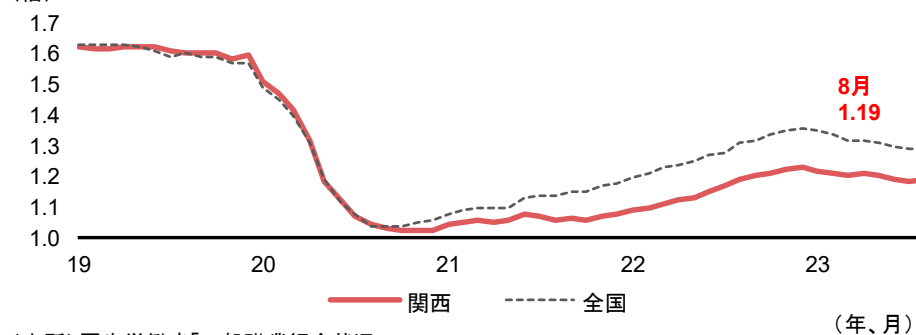
(前年比、%)



(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算
(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

有効求人倍率(季節調整値)

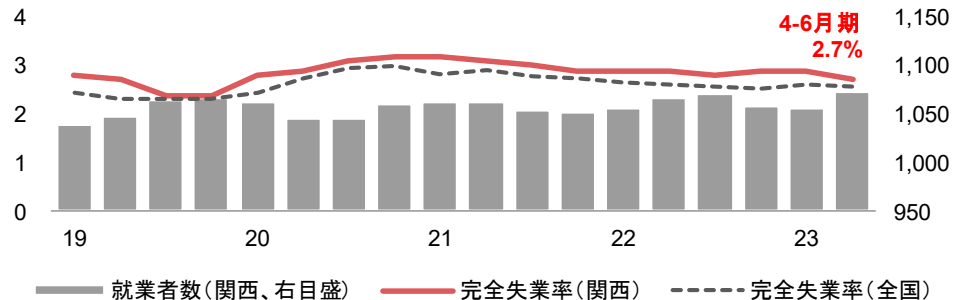
(倍)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

失業率と就業者数(季節調整値)

(%)

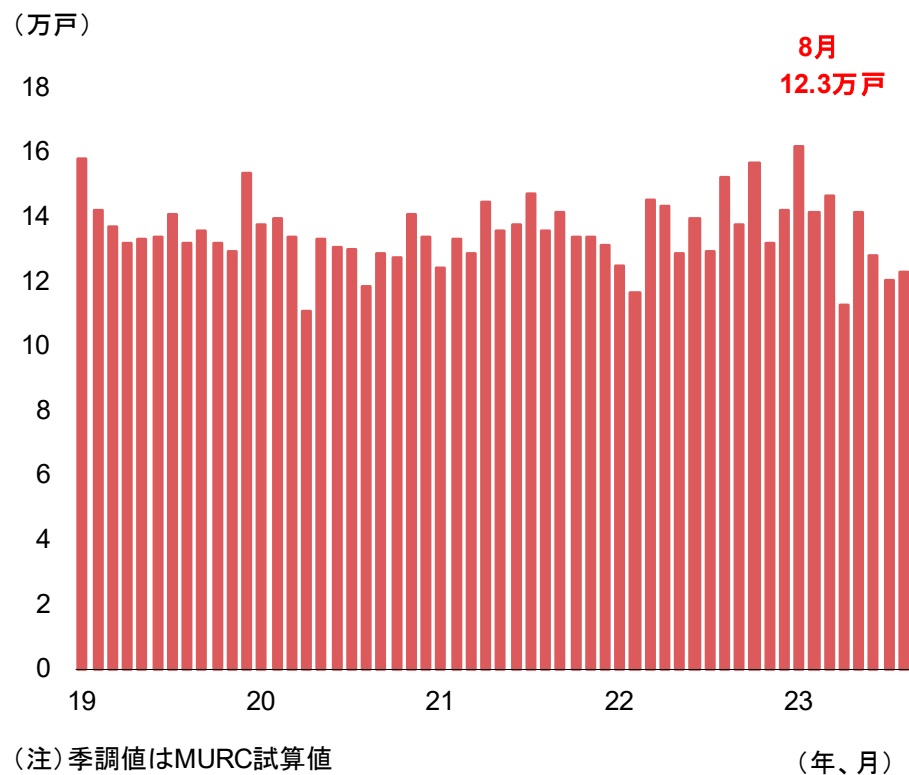


(出所) 総務省「労働力調査」

住宅投資

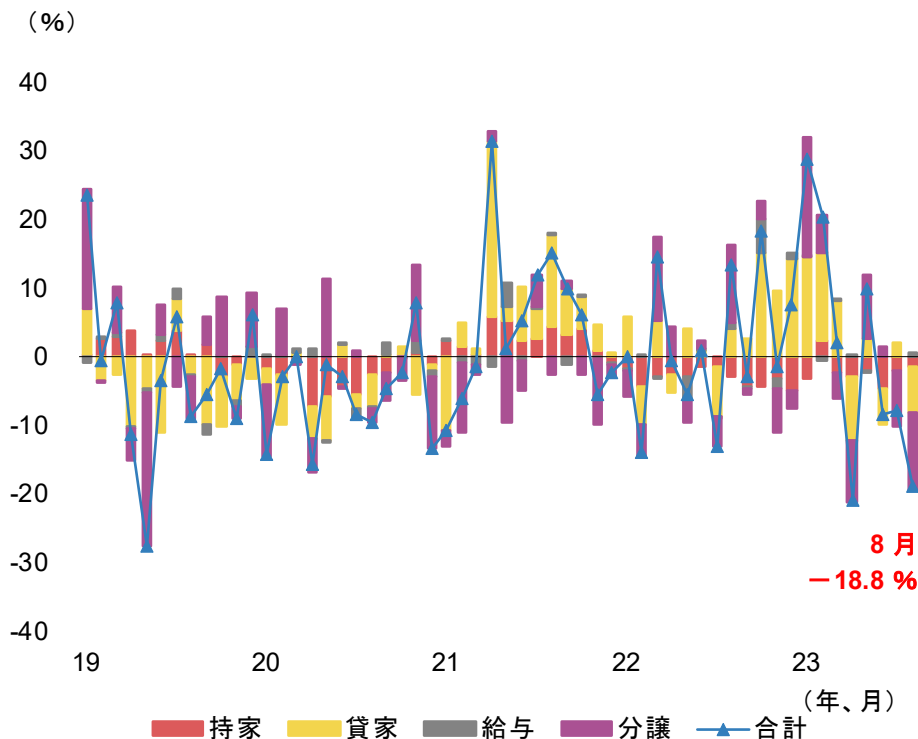
8月の住宅着工は季調・年率12.3万戸と3ヵ月ぶりに前月比で増加したが、均してみると弱含んでいる。前年比では、持家、貸家、分譲が減少し、全体で-18.8%と減少した。

新設住宅着工戸数(季調済年率換算)



(注) 季調値はMURC試算値
(出所) 国土交通省「建築着工統計」

新設住宅着工戸数(前年比)

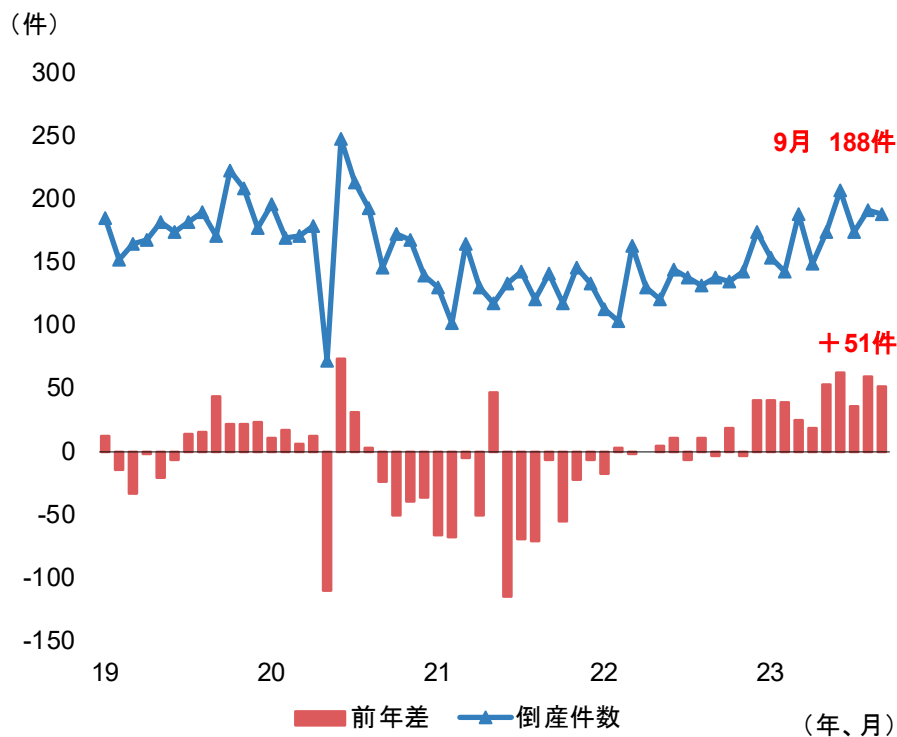


(出所) 国土交通省「建築着工統計」

倒産

9月の倒産件数は188件と前年から51件増加。このところ前年からの増加が続いている。

倒産件数

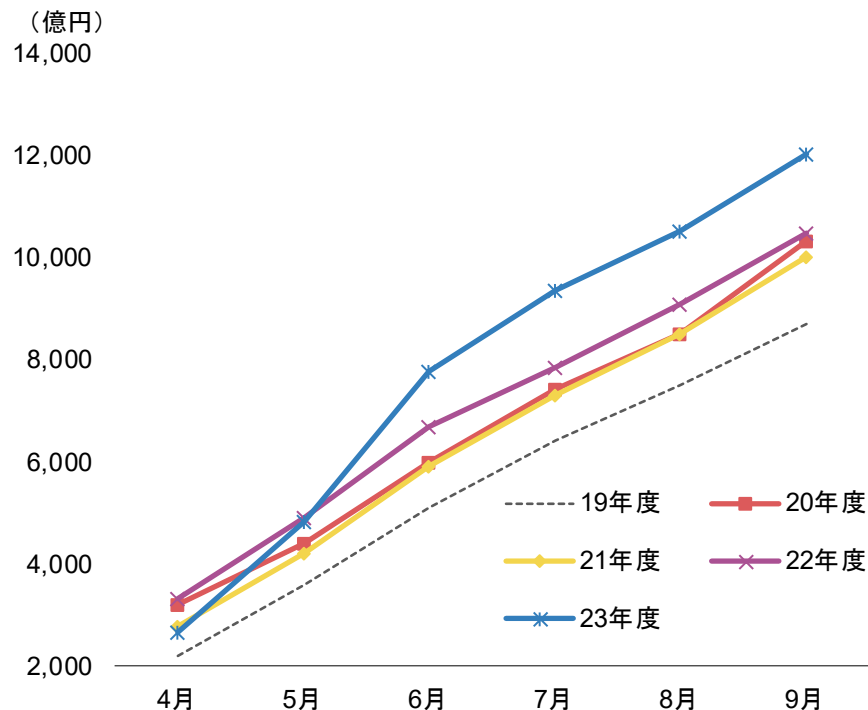


(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

9月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比+14.7%の1兆2,047億円。近年では高めの水準となっている。

公共工事請負金額(年度累計)



ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL: 03-6733-1626 E-mail: chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー